

# 科学技術と社会という視点に立った人材養成を目指して

～ 科学技術・学術審議会人材委員会 第三次提言(概要図) ～

## 検討の背景

科学技術と社会の関わりの深化・多様化。人材の活躍の場の多様化。少子高齢化の進展による人材の質的・量的懸念。科学技術への関心低下。  
 国立大学の法人化による各大学の自主性・自律性の大幅な拡大。  
 知的創造活動に関する産学官連携や大学等の地域貢献の進展。  
 OECDにおける活動など、人材養成は先進諸国共通の課題。

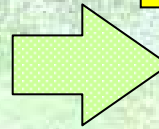
## 検討の視点

科学技術と社会という視点に立って、新しい「知」の創造による社会貢献  
「知」の活用や社会還元  
「知」を創造し活用する社会の持続的な発展  
 に係る人材養成方策について改革方策を提言。

「知」の活用  
や社会還元

新しい「知」の  
創造による  
社会貢献

「知」を創造し活用する  
社会の持続的な発展



## 改革の基本的視点

小、中、高、大学学部、大学院、社会人等に至るまで、連続性をもって各段階に応じた取組の推進  
 各段階に応じた教員の教育能力の向上、多様性を育み、適正な競争環境や能力・業績が公正に評価される環境づくり  
産学人材養成パートナーシップの確立

## 「知」の活用や社会還元

## 新しい「知」の創造による社会貢献

新しい知識と技術を結び 創造性豊かな技術者養成	産学官連携等を推進する 人材の養成	対話型科学技術社会 を構築していく人材養成	求められる 人材(役割)	世界をリードする質の高い研究者 養成	多様な研究者が活躍 できる環境整備
・人材養成面における産学官連携の強化	・産学連携を支える専門人材や高度な専門的職業能力を有する人材が不可欠。	・新たな課題対応等、国民の科学技術リテラシーが重要。 ・科学技術に関するコミュニケーション人材が必要。	人材養成上の課題	・大学院博士課程の教育的観点や主体的に研究させるという視点が不足。 ・知の空洞化の顕在化が懸念。 ・我が国研究者の海外における研究経験が不十分。	・我が国全体の研究活動の維持・向上を図るためには、多様な研究者の活躍が不可欠。 ・多様性や流動性の一層の向上が必要。 ・若手、女性、外国人研究者などが活躍できる環境整備が必要。
継続的能力開発環境整備 <span style="color:red">大学・学協会を活用した継続的能力開発システム構築</span> 実行力、創造力を持った技術者、高度技能者の養成 <span style="color:red">大学院等における技術者養成に向けた取組推進</span>	<span style="color:red">産学人材養成パートナーシップ確立 質の高いインターンシップ</span> 新産業創出への貢献 知的財産・技術経営等、 <span style="color:red">産学官連携を実践・支援する人材養成</span> 高度専門職業人の養成 各種の <span style="color:red">専門職大学院に対する取組支援</span>	科学技術コミュニケーション人材の養成・確保 コミュニケーター養成、 <span style="color:red">研究者のアトリチ活動推進</span> 理数担当教員の意欲、意識を含めた資質向上 小中高理数担当教員の <span style="color:red">修士号以上の取得や専修免許状の取得促進</span>	具体的な改革方策	研究教育拠点等への支援の強化 <span style="color:red">国際競争力のある世界最高水準の大学づくりの推進</span> 、大学学部における教育の質の充実 若手研究者等の海外派遣充実等 <span style="color:red">若手研究者の海外一流機関への派遣充実</span> 、我が国と諸外国の若手研究者間の国際交流の支援	多様性をはくむ創造的・競争的環境醸成 <span style="color:red">質の高い研究成果が創出される環境づくり</span> 、適切な人事システムの構築、 <span style="color:red">多様性や流動性向上に向けた各機関の取組促進</span> 多様な研究者が活躍できる研究環境構築 研究に専念できる環境整備、 <span style="color:red">若手研究者の自立性向上支援</span> 、優れた外国人研究者の受入促進

## 「知」を創造し活用する社会の持続的な発展

重点事項	課題	具体的な改革方策
博士号取得者等の社会の多様な場における活躍促進	・求められる能力が高度化する中、博士号取得者等の社会の多様な場での活躍が期待。 ・米国等に比較して、我が国の大学院博士課程における教育機能が十分でない。 ・博士課程修了者に対する民間企業の処遇や博士課程在学中の経済的な支援が不十分。	大学院博士課程における教育機能の強化 <span style="color:red">高度な人材養成機能をもつ研究教育拠点の形成支援</span> 、社会ニーズに応じた教育内容の工夫 <span style="color:red">優秀な人材の博士課程進学に対するインセンティブ付与</span> <span style="color:red">博士課程学生に対する経済的支援充実</span> 、各大学院の人材養成目的や取組等の明確化と情報発信 <span style="color:red">博士号取得者等が社会の多様な場へ進出し、活躍できる環境の整備</span> <span style="color:red">人材養成に係る産業界と大学院との連携促進</span> 、行政機関を含めた社会の多様な場での活躍促進
初等中等教育段階からの科学技術を支える人材養成	・初等中等教育段階から、子どもが科学技術を学び、親しむ環境の充実が必要。 ・科学技術分野に関心を持つ子どもについては、興味や関心等を伸ばすことで個性や能力の最大限の伸長が必要。	初等中等教育段階からの科学技術分野において卓越した人材の育成 <span style="color:red">理数が好き・得意な生徒を伸ばし創造性や独創性を育む取組への支援</span> (スーパーサイエンスハイスクール事業の発展・充実)、専門高校における専門教育の充実、各種科学オリンピックへの参加促進 <span style="color:red">理数への興味・関心を高め、理科好きの子どもを裾野を広げる</span> <span style="color:red">観察・実験等体験的・問題解決的な学習推進</span> (科学館等との連携)、研究者等に触れあう機会の充実